

# 第1学年 国語科学習指導案

大阪市立清水小学校  
指導者 野津 晃

1. 日 時 令和7（2025）年11月21日（金）第5校時（13：20～14：05）
2. 学年・組 1年1組 計33名
3. 場 所 1年1組教室
4. 単 元 名 こえに出してよもう 「おとうとねずみチロ」
5. 目 標

- 人物の様子を思い浮かべながら、お話を声に出して読むことができる。
  - ・ 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき語彙を豊かにしている。（知識・技能）
  - ・ 語句のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（知識・技能）
  - ・ 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（思考・判断・表現）
  - ・ 進んで人物の様子を思い浮かべながら、学習の見通しを持ってお話の内容や感想を伝え合おうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）
- 相手に伝わるように、声の大きさや速さを意識してはっきり話することができる。また、友だちの考えを参考にして、自分の考えを持つことができる。

## 6. 指導にあたって

### （1）児童観

本学級の児童は、学習に意欲的に取り組む児童が多く、どの教科においても好奇心を持って新しいことを吸収しようとする姿勢で臨んでいる。また、自分の考えを発表しようとする児童が多く、中には前に出てきて発表しようとするほど積極的な児童もいる。「話すこと」に関しては、1学期からペアでの話し合い活動を取り入れている。ノートを早く書き終わったり、自分の考えが決まったりした後で隙間の時間があると、近くの友だちと相談したり、考え方を伝え合ったり、話し合ったりしている場面が増えてきている。「書くこと」に関しては自分の考えを文章に表して書いたり、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えたりする力を少しずつ身につけている。板書をノートに写すだけでなく、道徳の時間等で自分の考えを書くことができる児童が少なくはない。その反面、書く内容に関しては、まだまだバリエーションが少なく、友だちの意見を真似して書いたり、指導者の助言をもとにして文章を書いたりする児童もいる。この点に関しては、国語科の学習を通して、文章の表現方法を覚えていく必要があると考える。また、「聞くこと」に関しても課題があると感じる。誰かが発言をしている時に、それに被せて話してしまったり、指導者の話を聞き逃してしまったりすることで、授業の進行が滞ってしまうことが多々ある。話し方や聞き方のルールについて指導を繰り返してはいるが、定着には至っていない。

学級全体の課題に加えて、一部の児童については、ひらがなの読み書きがままならない状態にある。ひらがな表を使って読んだり書いたりすることを練習しているが、定着しないまま授業に参加している。こういった児童と学習内容が定着している児童との間で学習に対する意欲の差がどんどん開いてしまっているのが本学級のいちばん大きな課題であると考えます。

国語科の学習では、1学期から音読を積極的に行うようにしている。「一斉読み」「追い読み」以外にも「まる読み」や「たけのこ読み」など飽きが来ないような工夫をしてきた。しかし、アンケート「音どくするのはたのしいですか。」（資料①—4）の結果では、音読を楽しめないと感じている児童が30%もいて、その背景には、前述したひらがなの「読み」の能力が大きく影響していることが考えられる。一方で、「音どくをするときに よみかたを くふうしていますか。」（資料①—5）で、読み方を工夫している児童は90%とたくさんいることがわかった。そのことから、音読することに苦手意識を持っていたが、文章の内容を読み取り、それを音読に生かそうとしている児童は多いといえる。本単元でもこの意欲を十分に引き出して学習を進めていきたい。

2学期からは、本格的に物語文の学習が始まった。9月教材の「かいがら」では、登場人物の行

動や会話から、人物の様子を想像したり、登場人物になりきって演じたりして、物語の楽しさに触れながら学習した。10月教材の「サラダでげんき」では、初めて「場面」という言葉に出会い、場面ごとに出てくる人物の行動や会話に着目しながら読み、文章の内容を確認してきた。「書く」活動を多く取り入れるようになったのは2学期になってからである。板書を写すだけでなく、自分の考えを書いたり、単元の終わりには感想文を書いたりすることで、書く力を養ってきた。アンケート「ノートにかくのは たのしいですか。」「文しょうにかくのは たのしいですか。」(資料①—6、7)の結果にあるように、ノートを書くこと自体を楽しく思っていない児童はある程度いるが、文章を書くことは楽しいと感じている児童が90%と予想していたよりも高い結果になった。

ICTの活用については、1学期から指導者端末を使って資料の提示をしたり、児童が大型テレビタッチペンで直接記入をしたりしてきた。2学期からは、学習者用端末(以降「タブレット」)を用いてログインの仕方、発表ノートの使い方などタブレットの基本的な使い方を覚えていった。10月に入り、算数の学習に発表ノートを取り入れるようにした。実物のブロックの代わりに使ったり、式に考え方を書き込んだり、その考えを画面で共有したりすることで、タブレットを効率的に使用することに慣れてきている。また、「計算カード」や「時計の練習」など、ウェブアプリを使用して学習内容の定着に役立てている。国語の学習でも「いろいろなふね」では、単元の最後に自分の気に入った船を選び、その役目や造りを発表ノートにまとめて、それを大型テレビに映して発表したり、友だちにタブレットの画面を見せながら説明をしたりする活動をした。それ以外にも「ポケモンPCトレーニング」を使ってタブレットの基本操作を身に付けている。アンケート結果②からも、児童は、ICTの活用について肯定的であり、ある程度の基本的な技術を身に付けているということが分かる。

## (2) 教材観

本単元では、中心人物の様子を思い浮かべながら読み、物語の好きなところを選んで音読するという言語活動を設定している。好きなところを選ぶためには、人物が何をしているのか、どのような様子なのかを捉えなければならない。そこで、人物の様子を表す叙述をもとに、人物の行動を具体的に想像する力が必要となる。人物の様子や行動を具体的に想像したり、会話文の音読の工夫を考えたりすることによって、児童が好きなところを見つけられるようにしていきたい。

本教材は、おばあちゃんからのチョコッキを楽しみに待つ末っ子のねずみ「チロ」の様子や行動が中心に描かれている物語である。「そと」「なん日かたって」「おかのてっぺんの木」などの時や場所を表す言葉から、場面展開が捉えやすい。また、チロの様子や行動、会話からチロの気持ちの変容が分かりやすく表現されており、人物の様子を具体的に想像しながら読むのにふさわしい教材である。加えて、表情豊かに描かれているチロの挿絵も、具体的に想像する際の手がかりとすることができる。児童は、幼く素直なチロに自身を重ね合わせ、共感しながら読み進めていくことができる。と考える。

音読の様子を録画することは、1年生の児童でも比較的容易に行うことができる。毎回、場面ごとの音読のポートフォリオを作成し、それを比較することで、自分の成長を確かめることができる。そして、自分の伝えたい思いが音読に表現できているのか、自分の読みが他者にどのように聞こえているのか、客観的に捉えることもできるので、本教材は、学習者端末の活用に適している。と考える。

## (3) 指導観

本単元では、人物の行動を想像しながら、物語を声に出して読む9月教材の「かいがら」の学習と関連している。「くまのこ」や「うさぎのこ」になりきって演じたことを生かして、末っ子で幼い立場であるチロの様子を想像しながら、お話の好きなところを音読で表現できるようにしたい。登場人物の様子を表す叙述をもとに、中心となる人物の行動を具体的に想像することをねらいとする。そのためにも、様子を表す語句の語彙量を増やし、人物の様子が分かる言葉を捉えることができるようにしたい。また、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、人物の様子を思い浮かべながら音読するよう促したい。

本単元の学習では、ICTを積極的に活用していく。活用方法としては、主に発表ノートを使って、挿絵を並べ替えたり、考えや振り返りなどを入力したりしていく。また、それらを常時共有できるように、ライブ提出箱を使用する。ライブ提出箱によって、自分の考えを持つことが苦手な児童も、友だちの考えを参照することで、積極的に学習に参加できるようにしたい。と考える。教科書とタブ

レットを同時に使用するため、学習を円滑に進めることができるか心配されるが、単元を通して使っていくことで、徐々に教科書とタブレットの行き来に慣れていくであろうと予想する。そして、タブレットの他の利点も活かしていきたい。アンケートの結果で課題であると感じられた音読を楽しむながら取り組めるように、音読のポートフォリオを毎回作成する。自分の音読を記録し視聴することによって、普通に音読するだけでは、なかなか気づけない部分を客観的に捉えることができるようにしたい。そして、記録していくごとに音読が上手くなっている成長を感じ、今後、少しでも音読に意欲的に取り組めるようになるための一つの手段としていきたい。

第1時では、まず、題名や挿絵から内容を想像し、物語に興味を持てるようにする。P. 69の手紙の挿絵を見ながら、登場人物や場所、時期などを想像していく。次に、指導者の範読を聞く。その中で、分からない語句がある場合はチェックをし、全体で確認しておく。そして、物語の大まかな展開をつかんで初発の感想を書く。書いた感想は、ペアでの交流、全体での発表などで共有する。その後、単元を通して登場人物の気持ちを想像しながら音読をするという学習の見通しを持つ。その日の宿題で音読を行う時に、音読のポートフォリオを作成しておく。

第2時では、物語の大体の内容を捉えていく。まず登場人物の確認をし、誰がどのようなことをしたのかを通読しながら考える。次に、発表ノートを使って、物語で出てくる順番に挿絵を並び替え、挿絵にチロの会話文を結びつける。その後、文中の特定の語句（場所、時間を表す言葉）を探し出し、場所の移動や時間の経過があることを確認する。活動を進めていく中でチロが物語の中心人物であるということも確認しておきたい。

第3時（本時）では、前時で確認した物語の流れを確かめ、学習の見通しを持つ。その後、本時の流れを確認し、手紙が届いたときのチロの様子を想像しながら本時の場面を音読していく。そして、チロの会話文に線を引き、この場面で登場する「にいさんねずみ」「ねえさんねずみ」を含めた3匹の気持ちが分かる言葉を見つけて、全体で共有する。次に、発表ノートを使ってチロの挿絵にその時の気持ちを書き込む。また、それぞれのチロの気持ちに合った表情の顔マークをノートに挿入して視覚的にも気持ちが分かりやすいようにしていく。この時、本文から登場人物の気持ちがわかりにくい場合は、挿絵のチロの表情にも着目することを促したり、気持ちを文章に表すことに躊躇く児童の手助けとして、ライブ提出箱を活用したりする。活動の中で、チロの会話文の内容の変化からチロの気持ちだけ大きく変化していることに気づくようにしていきたい。この場面で出てくる3つのチロの会話文は、気持ちの変化が分かりやすく、音読するときにはどのような工夫をすればよいか考えやすい。そこで、それぞれの気持ちをどのように音読に表すかを会話文を中心にして考える。どのように読むか決まった児童から、各自で音読の練習をする。音読の練習に当たって、音読にどのような工夫があるか（声の大きさ、速さ、気持ちを込めるなど）も確認していきたい。その後、ペアでの読み合い、全体での発表をする。友だちの発表を聞いて、良かったところを確認する。振り返りでは、手紙が届いたときのチロの様子や気持ちについて、思ったことや気づいたことを発表ノートに書き、発表を通して全体で共有できるようにしていく。最後に、次時から同じような活動をしていくことと、毎回の宿題で音読のポートフォリオを作成していくことを確認する。

第4～7時も第3時と同様に、それぞれの場面で登場人物の行動について、叙述をもとに確かめ、チロの様子や気持ちの変化を想像しながら音読をする。また、第8時の活動に向けて、第7時の終了までに、これまで学習してきた場面の中でどの場面が1番好きかを決めておくように伝えておく。

第8時では、チロの様子を思い浮かべながら全文を音読する。そして、前時までに決めた場面をどのように声に出して読むかを考える。その後、ペアで互いの音読を聞き合って、良かったところの感想を伝え合う。ここでは、発表ノートを使ってお互いの音読の工夫を項目ごとに評価し合うようにする。また、相手を変えてペアでの音読を何度か繰り返し、いろいろな相手と交流できるようにしていく。

第9時では、単元で学習したことを振り返る。学習を通して分かったことや頑張ったことを発表ノートに書いたり、発表したりして、全体で共有する。また、本単元の学習から、そのときの人物のしたことや言ったことを確かめたり、その人物になりきって読んだりすることで、人物の様子を思い浮かべることができることを押さえる。これまでに作成したポートフォリオを聞き比べる活動を取り入れることで、自分の成長を確かめ、自分の音読を客観的に捉えることができるようにしていく。音読のポートフォリオについては、今後も適宜取り入れていき、音読表現を豊かにする一助としたいと考える。

(4) ICT の活用について

授業の場所	<input checked="" type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他 ( )
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT 活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他 ( )
ICT 活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 持ち帰り <input type="checkbox"/> オンライン接続
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用端末 <input checked="" type="checkbox"/> 学習者用端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 大型テレビ )
活用コンテンツ	・ SKYMENU Cloud 発表ノート (学びシート)
ICT 活用のポイント	・ ライブ提出箱を使用し、友だちの考えが随時分かるようにしておくことで、考えることが苦手な児童の一助となるようにする。 ・ 音読のポートフォリオを作成することで、客観的に自分の音読を確かめ、成長を実感できるようにする。

7. 指導計画 (全9時間)

次	時	主な学習活動	個別最適な学び 協働的な学び
一	1	・ 初発の感想を交流し、学習の見通しを持つ。	個・協
二	2	・ 誰がどのようなことをしたのかを確かめ、物語の大体の内容をとらえる。	個
	3 (本時)	・ 手紙が届いた時のようすを思い浮かべながら、声に出して読む。	個・協
	4	・ 丘のてっぺんの木に立ったときのチロのようすを思い浮かべながら、声に出して読む。	個・協
	5	・ おばあちゃんに呼びかけ、お願いしたときのチロのようすを思い浮かべながら、声に出して読む。	個・協
	6	・ おばあちゃんからチョッキが届いたときのチロのようすを思い浮かべながら、声に出して読む。	個・協
	7	・ おばあちゃんにお礼を伝えるときのチロのようすを思い浮かべながら、声に出して読む。	個・協
	8	・ 物語の好きなところを選んで声に出して読み、感想を伝え合う。	個・協
三	9	・ 単元で学習したことを振り返る。	個・協

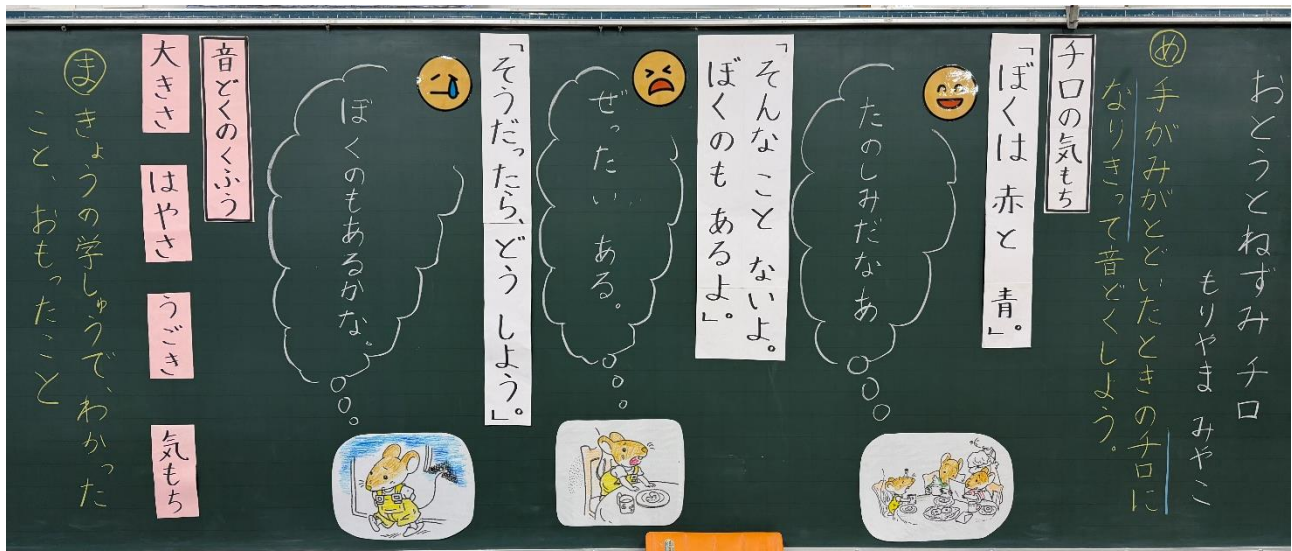
8. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき語彙を豊かにしている。	語句のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 「読むことに」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	進んで人物の様子を思い浮かべながら、学習の見通しを持ってお話の内容や感想を伝え合おうとしている。



<p>○ 音読の練習をする。</p> <p>4. 本時の学びを共有する。</p> <p>○ ペアで読み合う。</p> <p>○ 全体で発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自で練習を行うように説明する。</li> <li>聞いたあとで感想を述べるようにする。</li> <li>大型テレビに挿絵を映す。</li> <li>発表が終わったら、何人かに感想を述べるように促す。</li> </ul>		<p>お話を声に出して読もうとしている。</p> <p>(知・技)</p> <p>友だちの音読を聞いて、感想を伝えようとしている。</p> <p>(主)</p>
<p>5. 本時の振り返りをし、次時の見通しを持つ。</p> <p>○ 振り返りを書く。</p> <p>○ 振り返りを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の学習につなげられるように、本時の学びや次時の見通しを入力するように促す。</li> </ul>	<p>☆ 振り返りや次時の見通しを共有し、友だちの学びにも関心を持つことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大型テレビ</li> <li>指導者用端末</li> <li>学習者用端末 (発表ノート)</li> </ul>	

### (3) 板書



(4) 資料

① 国語科に関するアンケート

(%)

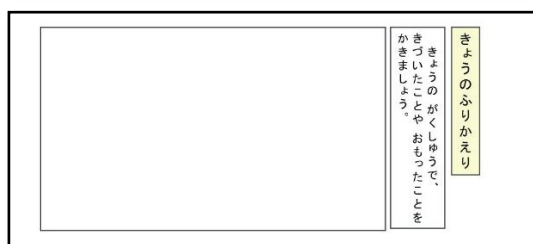
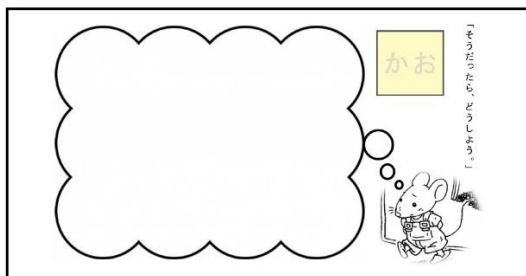
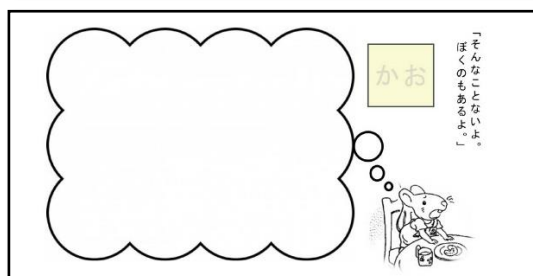
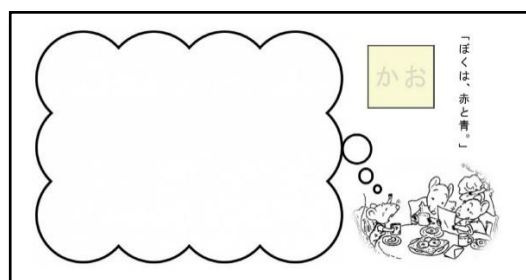
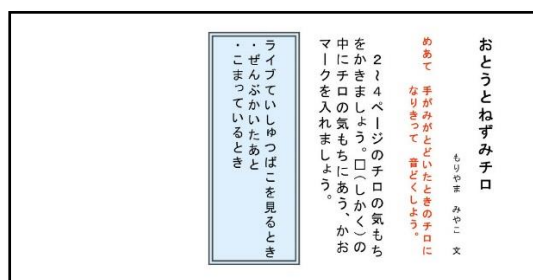
	思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	思わない
1、こくごのべんきょうは たのしいですか。	7 0	2 3	0	7
2、本をよむのは たのしいですか。	7 7	1 7	3	3
3、おはなしにでてくるひとのことをかんがえて よむことができますか。	6 4	2 0	1 3	3
4、音どくするのは たのしいですか。	5 7	1 3	1 3	1 7
5、音どくするときに よみかたを くふうしていますか。	7 7	1 3	3	7
6、ノートにかくのは たのしいですか。	5 0	2 0	1 3	1 7
7、文しょうをかくのは たのしいですか。	7 7	1 3	3	7

② ICT に関するアンケート

(%)

	思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	思わない
1、パソコンをつかったじゅぎょうは たのしいですか。	9 7	3	0	0
2、パソコンをつかったじゅぎょうは わかりやすいですか。	7 7	2 0	0	3
3、パソコンをじゅぎょうで もっとつかいたいですか。	8 7	7	0	7
4、ペンをつかって もじをかいたり えをかいたり することができますか。	8 7	1 0	0	3
5、しりょうばこにあるしりょうをつかうことができますか。	7 7	1 7	3	3
6、ノートをせんせいに ていしゅつすることが できますか。	9 7	3	0	0
7、せんせいにていしゅつした ともだちのノートを みる ことができますか。	9 4	3	3	0
8、チームズから していされたリンクに せつぞくすることが できますか。	1 0 0	0	0	0

③発表ノート





## 10. 成果と課題

### (成果)

- 単元の導入時にチロのお面を提示したことで、意欲をもって学習に取り組む児童が多かった。また、そのお面を被ってチロになりきり、積極的に音読の発表をしようとする児童が普段以上にいた。
- 1時間の活動の流れを掲示したことで、見通しを持って学習することができた。そして、同じ流れでの学習が複数回あったことで、回が増すにつれてスムーズに学習に取り組めるようになった。
- 気持ちを表す言葉を動作化することで、チロの気持ちが考えやすくなった。
- 学習者用端末を普段の学習から積極的に取り入れたことで操作に慣れており、発表ノートやライブ提出箱などをスムーズに使うことができていた。
- ライブ提出箱を活用することで、困った時に友だちの考えを参考にしたり、友だちの発表ノートを見て、考えを深めたりすることができた。
- 宿題に音読のポートフォリオを取り入れることで、意欲的に音読の宿題をする児童が増えた。また、普段あまり発表をしようとしなかった児童が大きな声で自信を持って音読している姿を見ることができた。音読のポートフォリオは児童から好評で、今後も続けていきたい。



### (課題)

- 発表ノートにチロの気持ちを書く活動では、何を書けばいいかわからず困ってしまう児童が一定数いた。また、気持ちを表す表情マークを発表ノートに貼り付けて視覚的にもわかりやすくなるようにと考えたが、使える表情マークの種類が少なく、表情の違いがわかりにくかった。表情マークの数を増やしたり、表情を自分で書けるようにしたりする必要があると感じた。
- 本時では活動がとて多く、予定していた活動をすべて行うことができなかった。そのため、本単元の中心となる音読の活動が短くなってしまった。
- 音読をする範囲が広く、一回あたりの音読時間が長くなってしまい、発表できる児童の数が少なかった。音読する範囲を絞ったり、チロのセリフだけ発表したりするなど、多くの児童が発表できる工夫が必要だった。また、音読の工夫の仕方を具体的に説明していなかったため、チロの気持ちを考えたが、それを音読に反映することができない児童が多かった。
- 1年生で教科書と学習者用端末を併用することはメリットもあるが、まだまだ課題があるということも分かった。発表時に端末を触って発表を聞いていなかったり、すぐに書き直すことができるため、あまり考えずに書いてしまったりするなどのデメリットを感じた。しかし、慣れてくるとスムーズに決まりを守って使用できる児童が増えてきたため、今後も必要に応じて、端末の活用をしていきたい。